

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(三大石油会社の業績比較 <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/ExxonShellBp.html>)

マイライブラリー: 0214

(注)本稿は2012年2月9日及び11日の2回にわたり「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.2.11

前田 高行

三大国際石油企業 2011 年度業績速報シリーズ(1)

I. ExxonMobil の業績

ExxonMobil、Shell 及び BP は三大国際石油会社(International Oil Company, IOC)或いはスーパー・メジャーと呼ばれているが、これら三社の昨年第四四半期及び通年業績が相次いでホームページに公表された。

本稿では三社の公表資料の中から 2011 年度の売上高、利益、石油及び天然ガスの生産量並びに設備投資額を取り上げて分析するとともに、過去 5 年間(2007~2011 年)の各社の業績の推移を見ることとする。そしてシリーズの最後に三社を横並び比較し、その優劣を検討して見る。

最初に取り上げるのは ExxonMobil 社である。(詳細は下記同社 HP を参照)

http://www.businesswire.com/portal/site/exxonmobil/index.jsp?ndmViewId=news_view&ndmConfigId=1001106&newsId=20120131006006&newsLang=en

1. 2011 年の売上・利益・投資及び生産量

(1)売上高

ExxonMobil の 2011 年 1-12 月の売上高は 486,429 百万ドルであり、前年度の売上 383,221 百万ドルに比べ 27%の増収となった。後述の如く同社の原油と天然ガスの合計生産量は前年比微増であったにもかかわらず平均価格が大幅に上昇したことが増収の要因である。

(2)利益(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93aExxon.pdf> 参照)

利益は 41,060 百万ドルであった。これは前年度(30,460 百万ドル)に対し 35%上昇しており、売上高増収(+27%、上記)以上の結果となった。この利益額は日本円で 2.9 兆円程度に達し、国際石油企業の強靱さを見せつけたと言えよう。

利益の内訳を上流部門(原油生産)と下流部門(石油精製販売)に分け、さらにそれぞれを米国内と米国外に分けて比較すると、まず最も利益が多かったのは米国外の上流部門であり、全体の利益の 71%の 29,343 百万ドルを稼ぎ出している。これに次ぐのが米国内の上流部門で利益額は全体の 12%、5,096 百万ドルであった。これらを合計すると同社の利益の 8 割強が上流部門によるものであることがわかる。

これに対し下流部門は ExxonMobil 全体の利益の 11%を占めるにすぎず、米国外で 2,191 百万ドル、米

国内では 2,268 百万ドルの利益を計上している。同社は利益の殆どを海外の上流部門に依存していると言える。

(3)設備及び探鉱投資

2011 年度の投資総額は 36,766 百万ドルであり、同社は利益とほぼ同じ程度の投資を行っている。投資を上流部門、下流部門、化学部門およびその他に分けると、上流部門には全体の 90%を占める 33,091 百万ドルが配分されている。利益に占める上流部門の比率は 83%であり(上述)、これを上回る比率で上流部門に投資していることになる。同社は事業の軸足を上流部門に移していると言えよう。

(4)石油・天然ガスの生産量

2011 年の石油と天然ガスの生産量は石油が一日当たり平均 231 万バレル(以下 B/D)であり、天然ガスは日産 131 億立方フィート(以下 cfd)である。石油の生産量はナイジェリア一國に匹敵する生産量であり、天然ガスはイランよりやや少ない程度である¹。天然ガスを石油に換算し石油と合計した場合、ExxonMobil の生産量は 451 万 B/D となるが、この生産量はメキシコ、ノルウェーを上回り世界第 7 位の規模である。

石油生産量を地域別にみると、最も多いのはアジア・大洋州の 86 万 B/D であり、続いてアフリカ 51 万 B/D、米国 42 万 B/D、欧州 27 万 B/D である。また天然ガスについてはアジア・大洋州が最も多く(54 億 cfd)、次いで米国(39 億 cfd)である。特に米国における天然ガスの生産量は近年大幅に増加しており 3 年間で 3 倍に急増している。米国では現在シェール・ガスの開発がブームを呼んでおり、ExxonMobil も Marcellus 社の買収など積極的な投資を行って米国での天然ガス生産に力を入れている。

2. 2007～2011 年の業績推移

(図 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/2-D-4-93bExxon.pdf> 参照)

2007 年から 2011 年までの過去 5 年間の売上、利益、設備投資及び生産量(天然ガスを石油に換算した合計生産量)は以下の通りであった。

(1) 売上高

2007 年に 4,046 億ドルであった ExxonMobil の売上は 2008 年には 4,774 億ドルに急増したが、2009 年には一転して前年比 35%減の 3,106 億ドルに急減した。その後 2010 年には 3,832 億ドルに回復し、更に 2011 年の売上は大幅に伸び 2008 年を上回る史上最高の 4,864 億ドルに達した。

この 5 年間の売上の増減は石油価格の急騰及び急落が主な理由である。すなわち 2007 年から 2008 年にかけては生産量が急減しているにもかかわらず売上高は増加しており、石油価格の急騰が売上高増加の要因となっている。しかし 2009 年は生産量が横這いだが石油価格の急落により売上は前年比 35%の急減であった。2009 年以降は生産量の増加と価格回復により売上高は順調に回復している。

(2) 利益

各年の利益額は 2007 年 406 億ドル、2008 年 452 億ドル、2009 年 193 億ドル、2010 年 305 億ドル、2011 年 411 億ドルであった。5 年間では 2008 年の利益額が最高であり、2009 年には前年の半分以下にとどまった。その後、2009 年から 2011 年まで利益は順調に上向しているが未だに 2008 年を上回ってはいな

い。

売上高と利益の対前年比増減を比較すると2009年の売り上げは対前年比34.9%の減少であったが、利益はそれ以上の57.4%減となっている。その後2010年及び2011年は売上高の対前年比増加率が23.4%増及び26.9%増であるのに対し、利益はそれぞれ58.0%増、34.8%であり、いずれも利益の増加率が売上増加率を上回っている。

(3) 設備・探鉱投資額

設備・探鉱の投資額は売上或いは利益のぶれとは関係なく毎年増加の傾向にある。即ち2007年は209億ドル、その後2008年261億ドル、2009年271億ドル、2010年322億ドル、2011年368億ドルの投資が行われている。

2011年の場合、投資の90%は上流部門が占めており、ExxonMobilでは継続的に探鉱開発に力を注いでいることがわかる。石油及び天然ガスは再生不可能な資源であり、従って石油企業としては新規鉱区の獲得とその探鉱開発、既存油田の回収率向上、同業他社の買収などにより自社の資源量を維持し続けなければならない宿命がある。さらに新規鉱区の探鉱開発はリスクも高く、投資のリードタイム(回収期間)が長いため、長期的視野に立った投資が必要である。ExxonMobilの投資が毎年増加しているのはこのような理由のためと考えられる。

(4) 生産量(石油及び天然ガスの合計生産量)

2007年に418万B/Dであった生産量は2008年、2009年と続いて4百万B/Dの大台を割った。このような生産量の急激な減少はいくつかの理由が重なったものであり、その一つは2007年のサブプライムショック以降、世界景気が急速に冷え込み、その結果石油製品の販売量が減少したことにある。さらに産油国における政治的な要因もあるものと考えられ、ExxonMobilの場合は、ベネズエラの石油国有化問題などの影響もあったと推定される。しかし2010年には445万B/Dに回復し、2011年も微増の451万B/Dと過去5年間で最も多い生産量となっている。これは探鉱投資による新規石油・ガス田の発見、或いは米国内のシェール・ガス権益取得などのM&A戦略の成果が現れたものであろう。

(ExxonMobil 編 完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ 拙稿「BP エネルギー統計 2011 年版 石油篇」参照
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0187BpOil2011.pdf>